

【評価実施概要】

事業所番号	170200760		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホームすぎの子の家		
所在地	〒007-0803 札幌市東区東苗穂3条1丁目10番2号 (電話) 011-782-0706		
評価機関名	NPO法人福祉サービス評価機構K-ネット		
所在地	〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B (電話) 011-281-5871		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年3月17日

【情報提供票より】(22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤15人, 非常勤	3人, 常勤換算1.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	2~3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有(家賃の3ヶ月分)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	0名		
要介護3	10名	要介護4	1名		
要介護5	4名	要支援2			
年齢	平均 86歳	最低	79歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東苗穂病院・東苗穂たんぼぼクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線通りから少し入った、閑静な住宅街の一角にあり、徒歩圏内には大型スーパー・コンビニ・温泉施設・飲食店などが在り、交通の便も利便性も良い。1階玄関前には掲示板を設置し、健康・衛生・介護に関する情報や行事予定等を地域に発信し、啓発や広報活動に役立っている。ホームには看護師が常勤していること、運営母体が医療法人なのも利用者・家族にとって安心感が高い。緊急時対策としては、定められた防災訓練の他、全職員が救急救命講習を受講し、人工呼吸法やAED使用法を学び、不測の事態に備えている。1階には運営母体の保育園が新設され今後の関わりと、さらなる発展が多いに期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の改善課題である理念の掲示場所については、来訪者や家族の目に留まるようにエレベーター内にも掲示している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は日常業務の振り返りや気づきの機会とし、職員全員で取り組み、効果を上げている。自己評価・外部評価は誰でもが手に取り見られるように、掲出している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は家族代表・地域代表・地域包括支援センター職員・管理者等が出席し開催している。行事予定と報告・地域との交流・防災計画等が話し合わせ、サービスの質の向上と事業所の運営に効果を上げている。また開催日時は各家庭に通知し、参加の呼びかけをしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置している。日頃から家族との交流をはかり、気楽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めている。家族参加の行事や、家族同士の交流の機会を設けており、家族の来訪時には近況報告をしている。また各ユニットごとに、写真入りの機関紙を発行している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。町内会行事やごみ置き場の清掃活動に積極的に参加している。運営母体である医療法人が主催する夏祭り等の行事には、地域の方達が参加し良好な関係を築いている。管理者は町内会の役員会や新年会に出席し交流を重ねている。

2. 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを念頭に、事業所の理念『ゆっくり・一緒に・楽しく・豊かに』を策定している。他に年間目標『安心で心地よい生活空間を提供する』も作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は来訪者や家族の目に留まるように、エレベーター内にも掲示している。理念にそった関わり合いを大切にし、申し送りやカンファレンスで話し合い、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。町内会行事やごみ置き場の清掃活動に参加している。運営母体である医療法人が主催する夏祭り等の行事には、地域の方々が参加し良好な関係を築いている。管理者は町内会の役員会や新年会に出席し交流を重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日常の業務の振り返りや気づきの機会とし、職員全員で取り組み、効果を上げている。自己評価・外部評価は誰でもが手に取り見られるように、掲出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は家族代表・地域代表・地域包括支援センター職員・管理者等が出席し開催している。行事予定と報告・地域との交流・防災計画等が話し合わせ、サービスの質の向上と事業所の運営に効果を上げている。また開催日時は各家庭に通知し、参加の呼びかけをしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の実績や取り組み状況を報告すると共に市管理者会議・市グループホーム協議会・区管理者連絡会などに参加し、情報交換・意見交換を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>各ユニットごとに、写真入りの機関紙を発行している。また家族の来訪時には近況報告をしている。必要に応じ電話での報告もしている。金銭管理については、金銭出納帳で報告・確認し、年末に1年分の領収書原本を渡す等、家族にとって必要な情報が伝達されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。日頃から家族との交流をはかり、気楽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めており、来所時の会話の中から家族の思いを受け入れ、ケアに反映するよう心がけている。家族参加の行事や、家族同士の交流の機会を設けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内異動は比較的少なく、安定している。退職者が出た場合においても余裕を持って引き継ぎを行い、スムーズに移行できるように配慮し、利用者へのダメージを極力抑える努力をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修はスタッフルームの掲示板で公表し、参加の呼びかけをしている。研修参加後は『研修報告書』を作成し、カンファレンス後に報告会を行っている。事業所内研修は月一度行われ、全職員が参加できるように、同じ研修を何度か行うようにしている。さらに法人内研修も年5～6回あり、働きながら学ぶ体制が充実している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営母体である医療法人は、多数の福祉施設を運営しており、研修会等で交流している。他の同業者とはグループホーム協議会や管理者連絡会の会議や勉強会に参加し、交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には利用者・家族の事前相談や見学で不安を少なくする取り組みをしている。ミーティングなどで職員間で話し合いの場を持ち、今までの生活習慣を大切に、家族と相談し、納得した上でサービスを利用するように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の尊厳を大切に、得意分野で力を発揮してもらうための場面設定に配慮・工夫をしている。職員は利用者に寄り添い、のどかに過ぎゆく時間を共有し、食事の支度や後片付け等を利用者と一緒に行い、共に学び支えあい、喜怒哀楽を共有出来る関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々、共に暮らしていく中での会話や様子から、希望や思いを把握し、困難な場合は家族に相談し、昔の暮らしぶりや趣味などを把握することに努め、本人本位の生活が出来るように支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族との関わりの中でより良く暮らすためのニーズや希望を汲み取り、主治医・医療機関と話し合いを行い、介護職員・介護支援専門員・管理者が協議を重ね、介護計画を作成している。日々の状況は、水分や食事摂取量・血圧・脈拍・体温・体重・口腔ケア・服薬状況等の健康状態を記録し、情報を共有している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の状態を詳細に記録し、毎月のカンファレンス会議において検討している。変化が生じた場合は、随時見直しや変更を行ない、状況の変化に細かく対応した、介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療機関の送迎や、外出時の付き添い、日常的な散歩・買い物など、事業所の多機能性を活かし柔軟な支援をしている。個々の満足度を高めるよう、出来る限り対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>訪問診療時は職員が必ず付き、日常の様子や変化を伝えている。かかりつけ医受診時は病状を記した書面を持参し必要な情報は、口頭と書面で確認している。協力病院医師による月2度の訪問診療があり看護師は常勤勤務している。緊急時には医師・看護師とは24時間体制で連絡が付く。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>『重度化した場合における対応に係る指針』は文書化され、関係者全員で確認している。変化があった場合には、医師・看護師・家族と話し合い、全職員が一丸となり支援をしている。運営母体が医療法人のため、家族の信頼が厚い。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、個別性や主体性に留意した対応をしている。何気ない言葉や語調がプライドを傷つける事がないように配慮し、記録や事業所新聞などではイニシャルを使用し、実名が出ない様にしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の決まりごとではなく、利用者個々の生活リズムやペースに応じ、安心・安全で自由に過ごせるように、希望に沿った支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や健康状態・身体状況に合わせた献立を工夫している。個々の能力に合わせ、調理、盛り付け、後片付けなどを一緒に行っている。職員も同じ食卓につき、楽しい雰囲気ですらできるように、心掛けている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を出来るだけ取り入れ、一人ひとりの習慣に合わせた入浴支援をしている。入浴を好まない利用者に対しては、言葉掛け等に配慮・工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・配膳・後片付け・掃除・手芸・花壇作り等、利用者の経験や生活歴に応じた役割の支援を行っている。誕生会・クリスマス会・新年会等の行事を通じ、楽しめる場面作りをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候を考慮し、心身の活性化に繋がるように日常的に近隣散策や、買い物に出掛けている。自然に戸外に出掛ける事が出来るように、外食等の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの重要性を認識し、日中は施錠していない。職員は常に利用者の所在に注意を払い、一人ひとりの外出傾向を把握し外出の気配を感じた時はさりげなく同行し安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、消防署の協力の下、防災訓練を行なっている。緊急時搬送体制は色別にし、分かりやすく整備されている。さらに万が一の事態に備え、全職員が人工呼吸法やAEDの使い方等の救急救命講習を受講している。消防法に基づきスプリンクラーの設置を準備している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの水分量・食事量を記録している。食欲が出るよう見た目にも美しく盛り付けし、身体・咀嚼・嚥下状況に合わせ、きざみ食・ミキサー食等を提供している。管理栄養士に相談し、疾病に合わせた献立作りをしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム中央には1階から3階まで吹き抜けの中庭があり、中庭からの自然採光で季節が感じられる造りになっている。共用空間の壁には利用者の作品や行事写真が飾られ、清潔でゆったりしており、温度や湿度の配慮もされ、居心地良く生活できる空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、自宅で使い慣れた家具・調度品等を持ち込み、自宅にいた時と同じような雰囲気の中で安心してゆったりと過ごしている。</p>		

 は、重点項目。